


2019年3月期 第3四半期決算概要



日進工具株式会社

2019年1月31日
(証券コード6157)

目次

1. 2019年3月期3Qの業績	P. 3	・・・	第3四半期決算の概要
	P. 4	・・・	営業利益の増加要因
	P. 5	・・・	損益計算書サマリー
	P. 6	・・・	貸借対照表サマリー
	P. 7	・・・	四半期業績推移
<hr/>			
2. 2019年3月期の業績見通し	P.14	・・・	業績見通し
	P.15	・・・	配当予想
<hr/>			
< 参考資料 >	P.17	・・・	過去5年間の業績と 主要データ推移
	P.18	・・・	投資指標
	P.19	・・・	株価推移とバリュエーション
	P.20	・・・	I R 情報サイトのご案内
<hr/>			

**2019年3月期
第3四半期の業績**



第3四半期決算の概要

前年同期比10.1%の増収、9.6%の増益（経常利益）

（百万円）

	2018年3月期 3Q累計	2019年3月期 3Q累計	通期予想	進捗率
売上高	7,245 (+9.9%)	7,977 (+10.1%)	10,520 (+7.7%)	75.8%
営業利益	1,983 (+25.6%)	2,186 (+10.3%)	2,750 (+2.0%)	79.5%
経常利益	2,002 (+26.9%)	2,194 (+9.6%)	2,780 (+1.7%)	78.9%
四半期純利益	1,425 (+33.3%)	1,496 (+5.0%)	1,910 (+0.3%)	78.4%

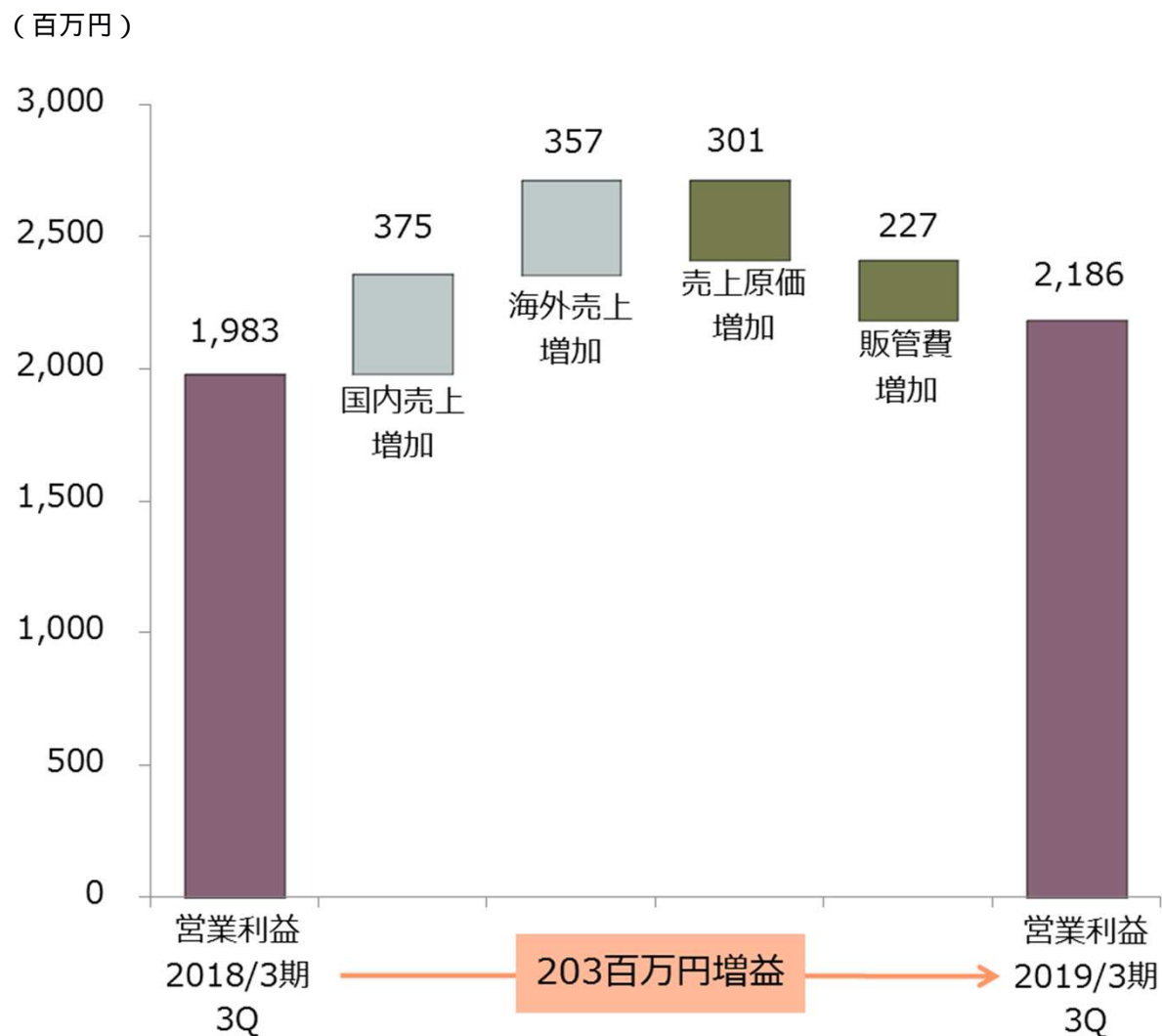
()内は前年同期比増減率

7-9月は豪雨や台風等自然災害の影響もあり、工具需要はややペースが落ちたものの、10月は挽回生産等から持ち直しを見せた。ただ年末にかけ、米中貿易摩擦の激化とともに中国製ハイテク機器の排除の動きが強まり、電子部品等に影響が出始めた。

第3四半期累計の連結売上高は前年同期比10.1%増の7,977百万円。通期予想に対する進捗率は75.8%と想定通りの状況。

同連結経常利益は前年同期比9.6%増の2,194百万円。進捗率は78.9%と売上高のそれを上回った。

営業利益の増加要因



国内売上高は前年同期に比べ375百万円（7.0%）の増加、海外売上高も同357百万円（19.1%）増加し、売上高全体では前年同期比10.1%増の7,977百万円。

732百万円の売上高増加に対して、売上原価は301百万円の増加となり、売上総利益率は56.8%と前年同期に比べ0.2ポイント上昇。

販管費はJIMTOF出展もあり展示会費が増加したほか、株式報酬費用の計上や本社移転費用等から227百万円増加した。

営業利益は2,186百万円で、前年同期比203百万円、10.3%の増加。売上高営業利益率は、前年同期比変わらずの27.4%であった。

損益計算書サマリー

(百万円)

	2018年3月期 3Q累計	2019年3月期 3Q累計	前年同期比
売上高	7,245	7,977	+10.1%
売上総利益 (率)	4,104 (56.6%)	4,535 (56.8%)	+10.5%
販管費 (率)	2,121 (29.3%)	2,348 (29.4%)	+10.7%
営業利益 (率)	1,983 (27.4%)	2,186 (27.4%)	+10.3%
経常利益 (率)	2,002 (27.6%)	2,194 (27.5%)	+9.6%
四半期純利益 (率)	1,425 (19.7%)	1,496 (18.8%)	+5.0%
設備投資額	470	1,007	+114.2%
減価償却費	460	453	-1.4%
従業員数	331人	330人	-0.3%

()は売上高に対する比率

売上高は前年同期比10.1%増の7,977百万円と計画通りの水準。

売上総利益も同10.5%増加の4,535百万円、売上総利益率は0.2ポイント上昇し56.8%。

販管費は、展示会費や人件費の増加に加え、本社移転費用もあり同10.7%増加、販管費比率は29.4%と0.1ポイント上昇。

営業利益は同10.3%増の2,186百万円。売上高営業利益率は27.4%で横ばい。

四半期純利益は5.0%の増加に止まったが、前年同期は、受取保険金等から特別損益が82百万円のプラスとなったことによる。(当期は固定資産の除却等から13百万円のマイナス)。

今期の設備投資予算は、生産力アップと自動化推進を図るため、機械設備を中心に通期で925百万円としていたが、新開発センターの建設が加わったことから、前年同期に比べ倍増。

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2018年 3月期	構成比	2019年 3月期3Q	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	9,702	67.1%	9,278	63.5%	-4.4%
現金及び預金	6,325	43.7%	5,784	39.6%	-8.5%
受取手形及び売掛金	1,508	10.4%	1,426	9.8%	-5.4%
棚卸資産	1,745	12.1%	1,924	13.2%	+10.2%
固定資産	4,764	32.9%	5,338	36.5%	+12.0%
有形固定資産	4,010	27.7%	4,523	30.9%	+12.8%
無形固定資産	156	1.1%	89	0.6%	-42.8%
投資その他の資産	598	4.1%	726	5.0%	+21.4%
資産合計	14,467	100.0%	14,617	100.0%	+1.0%
(負債の部)					
流動負債	1,961	13.6%	1,348	9.2%	-31.3%
買掛金	281	1.9%	288	2.0%	+2.7%
固定負債	503	3.5%	275	1.9%	-45.2%
負債合計	2,465	17.0%	1,623	11.1%	-34.1%
(純資産の部)					
自己資本合計	12,002	83.0%	12,929	88.5%	+7.7%
純資産合計	12,002	83.0%	12,993	88.9%	+8.3%
負債・純資産合計	14,467	100.0%	14,617	100.0%	+1.0%

流動資産は、法人税等や賞与及び新開発センター着工代金の支払いにより現預金が減少したほか、売掛金も減少、棚卸資産が10.2%増加（製品・原材料）したものの、全体では前年度末に比べ4.4%の減少。

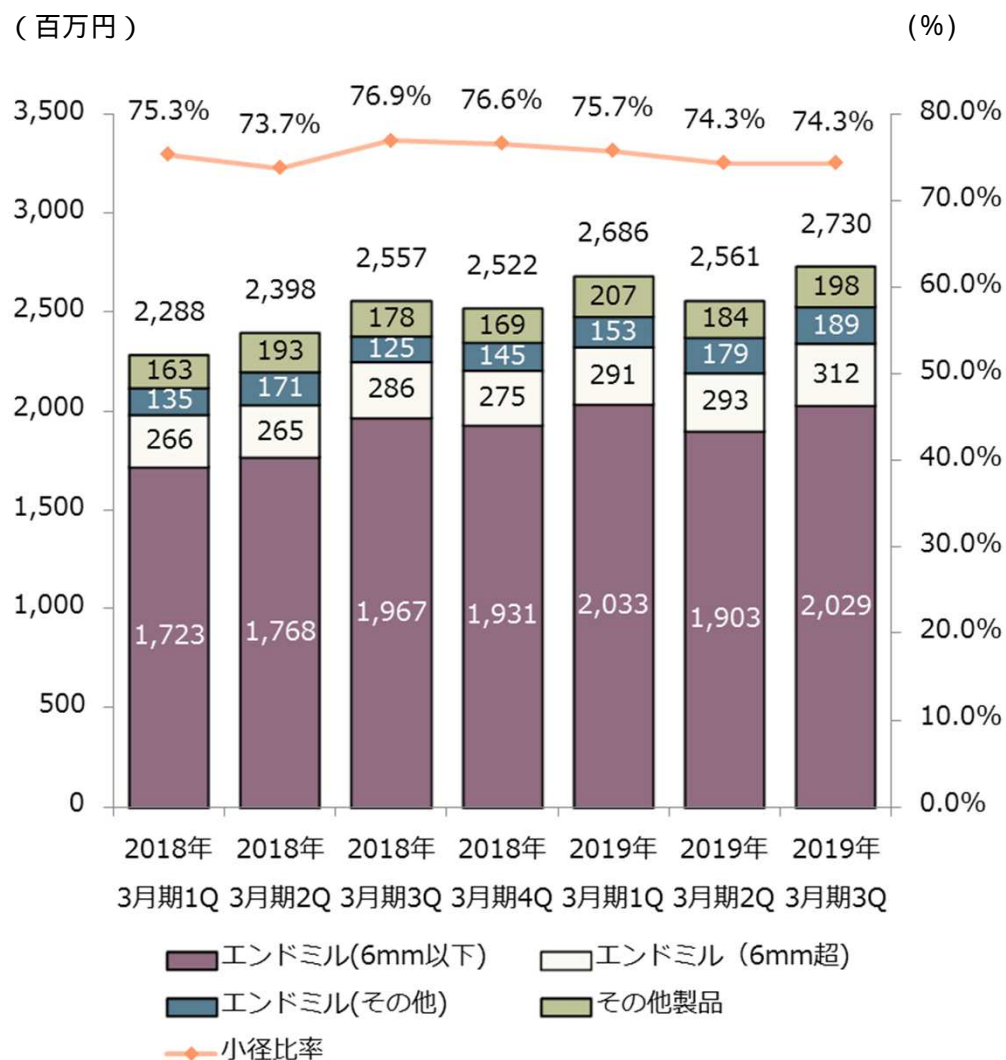
上記着工代金や本社移転に伴う敷金等から有形固定資産や投資その他の資産が増加。ソフトウェア開発費の返金等により無形固定資産が減少したものの、固定資産合計は同12.0%増加。資産合計では同1.0%の増加。

流動負債は、法人税等や賞与の支払いにより同31.3%減少。固定負債は、前会長の役員退職慰労金の支払い等から同45.2%減少。

純資産は同8.3%増加、自己資本比率は5.5ポイント上昇の88.5%。

四半期業績推移（売上高の推移 製品別）

製品別売上高と小径比率の推移



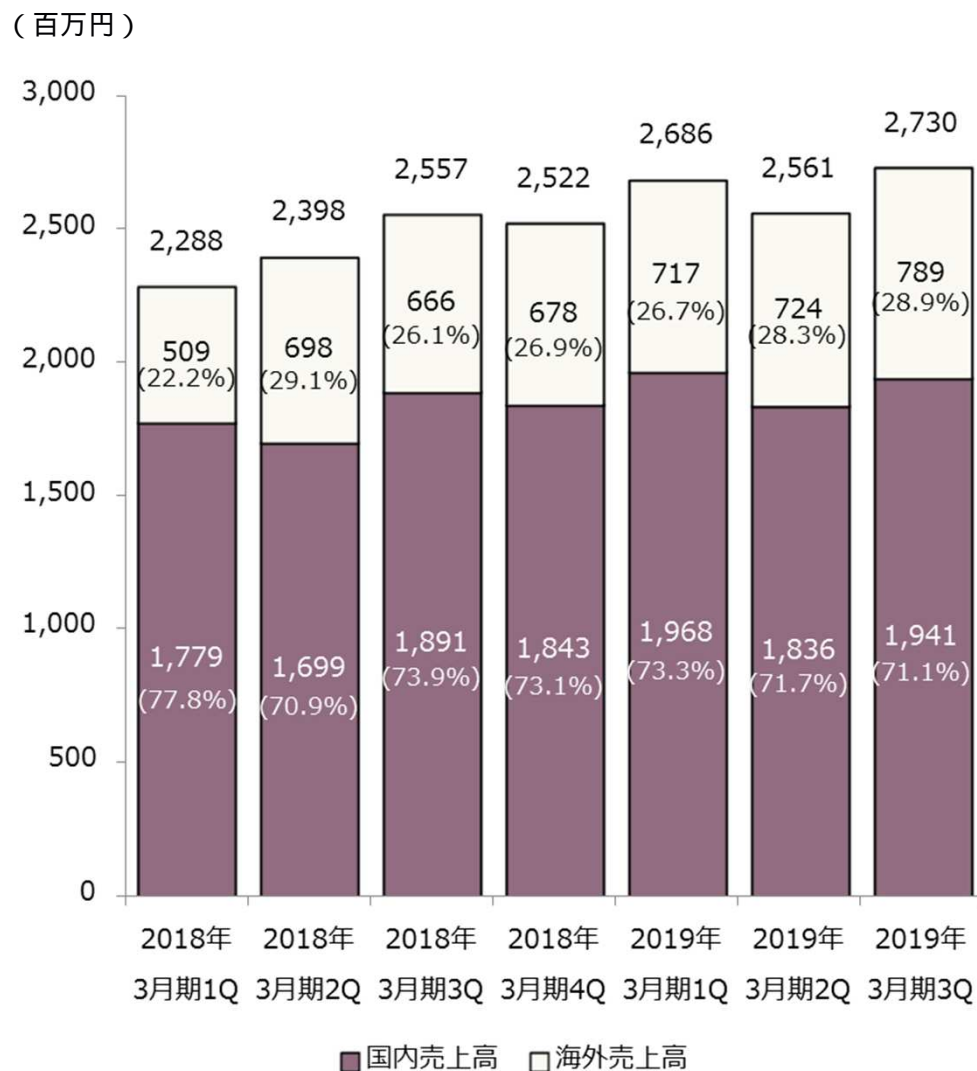
豪雨や台風等自然災害の影響等から、第2四半期は工具需要がややペースダウンしたが、第3四半期はその挽回生産もあって回復。四半期売上高は第1四半期を上回り、過去最高となった。ただし、米中貿易摩擦の激化や中国製ハイテク機器排除の影響等から、年末にかけては減速傾向となった。

第3四半期における連結売上高は2,730百万円となり、前年同期比で6.7%の増加、第2四半期に減少した反動もあり、前四半期比も6.6%の増加となった。

製品別では、主力のエンドミル（6mm以下）は2,029百万円と第1四半期を若干下回ったが、11月より値上げを行ったエンドミル（6mm超）は、値上げ前のまとめ買いの影響もあり312百万円と好調。エンドミル（その他）も増加したため、小径比率は74.3%と第2四半期と同水準に止まった。

四半期業績推移（売上高の推移 国内・海外）

国内・海外売上高の推移



海外売上高は789百万円、前年同期比では18.4%増と拡大、前四半期比でも8.9%伸びた。

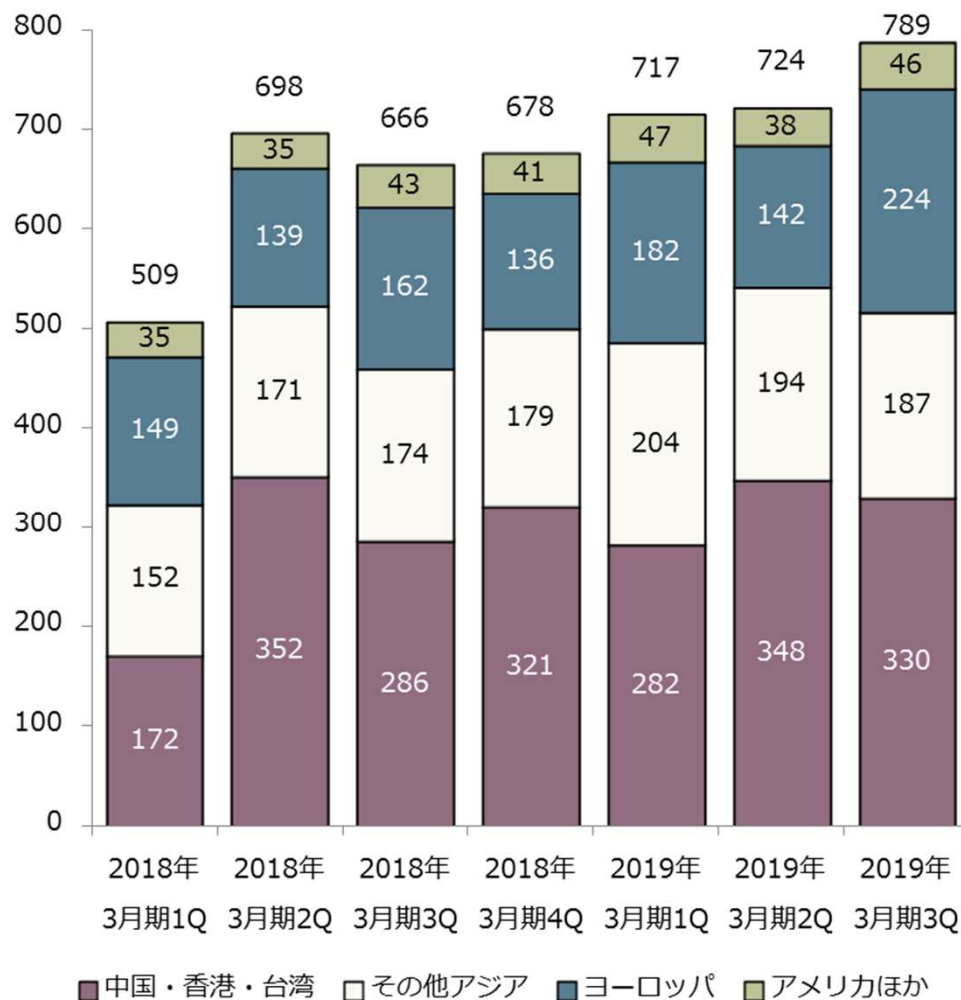
一方、国内売上高は1,941百万円と、前年同期比では2.7%の増加に止まった。なお前四半期比では5.7%の増加。

海外売上高が大きく増加したことから、海外売上高比率は28.9%に上昇。

四半期業績推移（売上高の推移 海外地域別）

海外地域別売上高の推移

（百万円）



海外売上高は789百万円となり、前四半期を上回り過去最高を更新。

アメリカほか向けは46百万円と前四半期に比べ増えたものの、依然拡大が難しい状況。

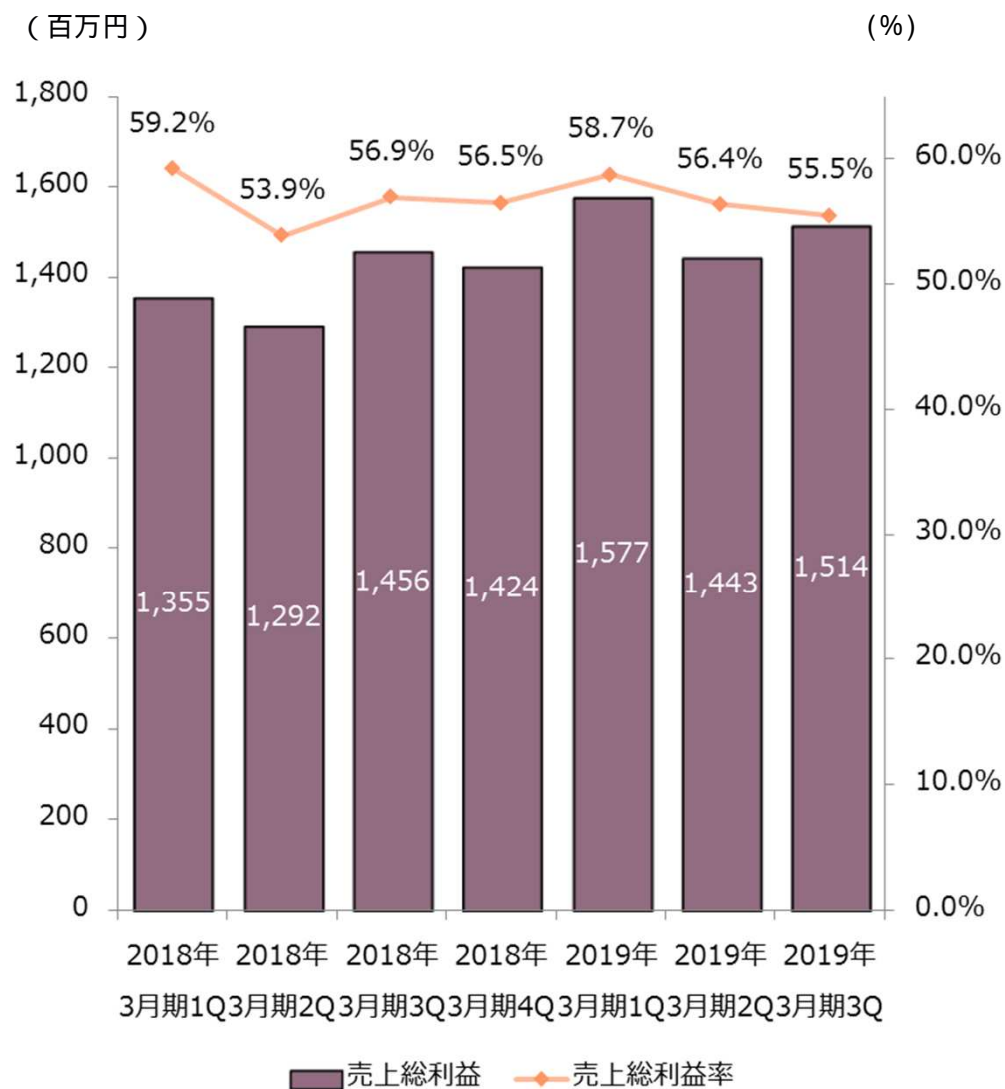
欧州向けは224百万円と拡大。ただし四半期ごとに振れがあるほか、英国のEU離脱問題等を抱え減速の可能性が懸念される。

タイを中心としたその他アジアは187百万円と2四半期連続で減少。中国から生産拠点シフトの話もあるが、精密・微細加工領域に関しては時間がかかる見込み。

中国・香港・台湾向けは330百万円と前四半期に比べ減少したものの、まずまずの水準を確保した。ただし香港の販売子会社経由分は連結に当たり3ヶ月の遅れがある。（第3四半期は7月-9月の数値が連結対象）

四半期業績推移（売上総利益の推移）

売上総利益と売上総利益率の推移

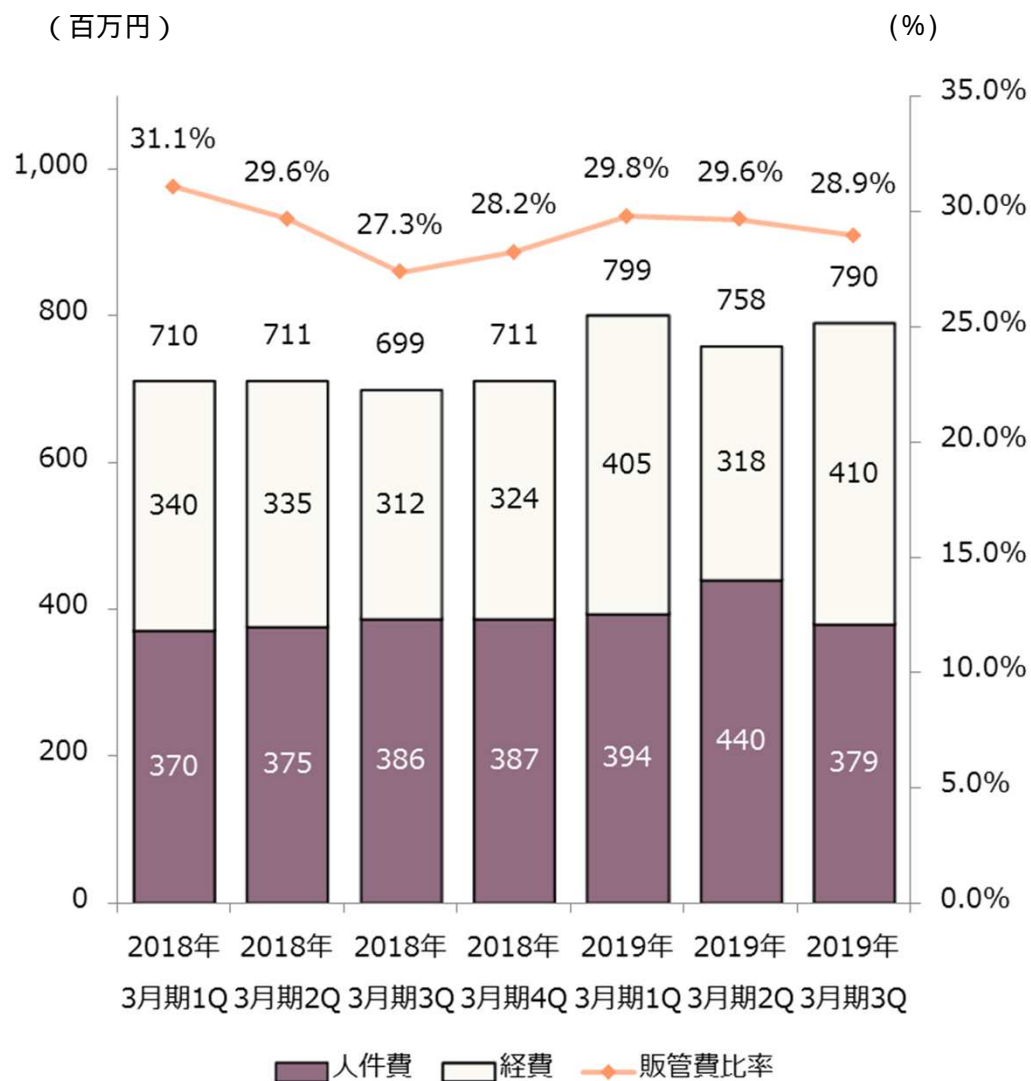


売上総利益は1,514百万円と前年同期比4.0%の増加、前四半期比でも4.9%の増加となった。

アイテム（型番・サイズ）ごとのバランスをとるため、比較的本数の少ない小ロット品の生産に注力したこともあり、売上総利益率は55.5%と若干の低下となった。なお原材料の値上げの影響は、原材料在庫及び旧価格での発注残があったため、第3四半期では軽微であった。

四半期業績推移（販管費の推移）

販管費と販管費比率の推移



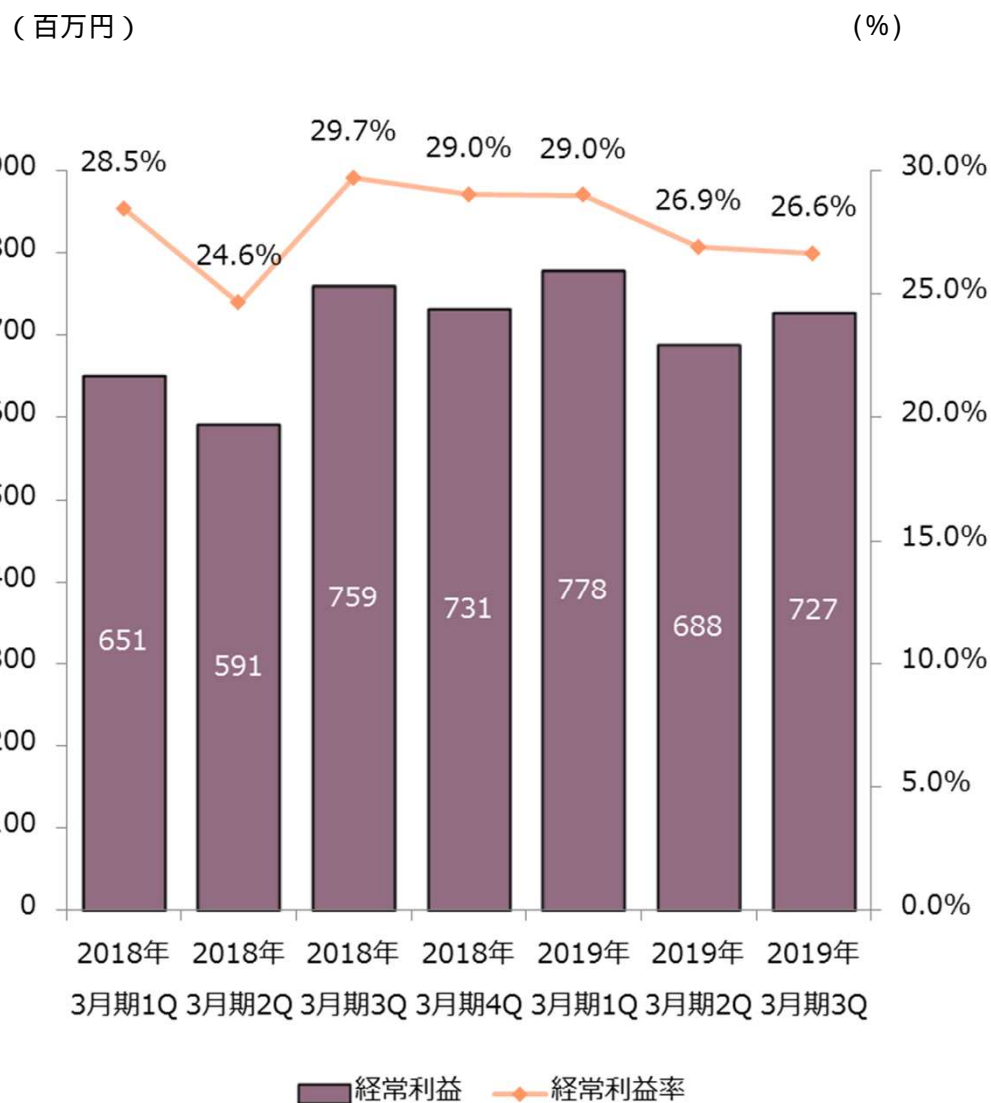
販管費は、前年同期比13.0%増の790百万円。売上高販管費比率は28.9%と前2四半期に比べ若干の低下。

人件費は、前四半期に今期より導入した株式報酬制度による64百万円の株式報酬費用が発生したが、同制度の導入により、役員退職慰労金制度を廃止したため役員退職慰労引当金の計上が無くなり、前年同期比でも1.9%の減少となった。

一般経費は、2年に1度開催される国内最大の工作機械見本市（JIMTOF）への出展費用や、JIMTOFにあわせて改訂発行する総合カタログの費用のほか、本社移転費用等により410百万円と前年同期に比べ31.3%の増加。

四半期業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



経常利益は727百万円となり、前年同期比では4.3%の減少。売上高経常利益率も26.6%と3.1ポイント低下した。

前四半期に比べ38百万円、5.6%増加したが、売上高経常利益率は売上総利益率が0.9ポイント低下した影響から、26.6%と0.3ポイントの低下となった。

2019年3月期の業績見通し

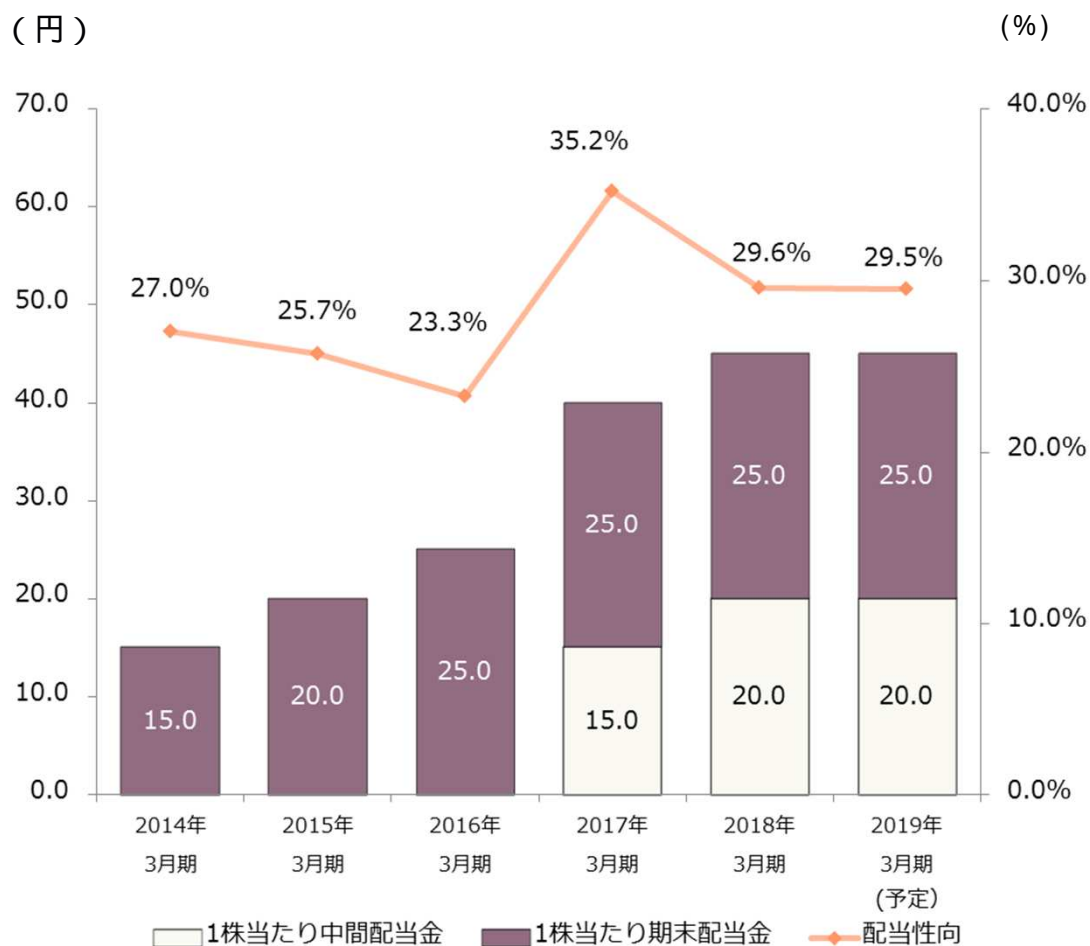


業績見通し

(百万円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	9,767	10,520	+7.7%	米中貿易摩擦や中国製ハイテク機器除外の影響が懸念されるが、自動車の先進運転支援システムの拡大等が期待されるため、当初の予想を据え置いた。
営業利益	2,695	2,750	+2.0%	第3四半期における進捗率は79.5%となっているが、市況の不透明感を考慮し、当初の予想を据え置いた。
経常利益	2,733	2,780	+1.7%	同上
当期純利益	1,903	1,910	+0.3%	同上
設備投資額	663	1,333	+101.0%	販売・生産量の増加に対応するため、工具研削盤や測定器等の設備増強を図る。新開発センター（来期竣工）の着工代金支払により当初予想の925百万円に比べ44.1%、408百万円の増加とした。
減価償却費	625	675	+7.9%	機械設備の増強による上昇を見込む。新開発センターの減価償却費発生は来期からとなるため、当初の予想を据え置いた。
EPS	152.23円	152.76円	+0.3%	
1株当り配当金	45円	45円	0.0%	利益水準を横ばいと想定していることに加え、新開発センターの建設資金等を考慮し、年間配当45円を予定。

配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

業績に応じた利益還元

- 2018年3月期の1株当たり年間配当金は45円
中間配当は20円
期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）
配当性向は29.6%
- 2019年3月期の1株当たり年間配当金は45円を予定
中間配当20円、期末配当25円
業績予想に対する配当性向は29.5%
利益水準を横ばいと想定していることに加え、
開発センター新設のための建設資金確保を考慮
- 株主優待
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された
1单元（100株）以上を保有する株主様を対象に
オリジナルクオカード1,000円分を贈呈

自社株買いではなく
配当にウェートを置く方針

< 参考資料 >



過去5年間の業績と主要データ推移

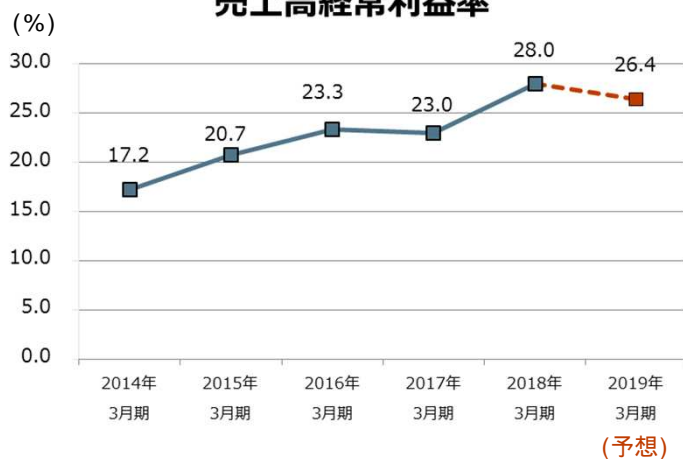
(百万円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
売上高	6,418	7,402	8,382	8,825	9,767
営業利益(率)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)	2,013 (22.8%)	2,695 (27.6%)
経常利益(率)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)	2,026 (23.0%)	2,733 (28.0%)
当期純利益(率)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)	1,420 (16.1%)	1,903 (19.5%)
有利子負債額					
純資産額	7,680	8,480	9,569	10,666	12,002
総資産額	9,075	10,339	11,371	12,517	14,467
自己資本比率	84.6%	82.0%	84.2%	85.2%	83.0%
設備投資額	469	612	1,295	774	663
減価償却費	534	474	505	632	625
1株当たり配当金	15円	20円	25円	40円	45円
従業員数	284人	281人	280人	322人	338人

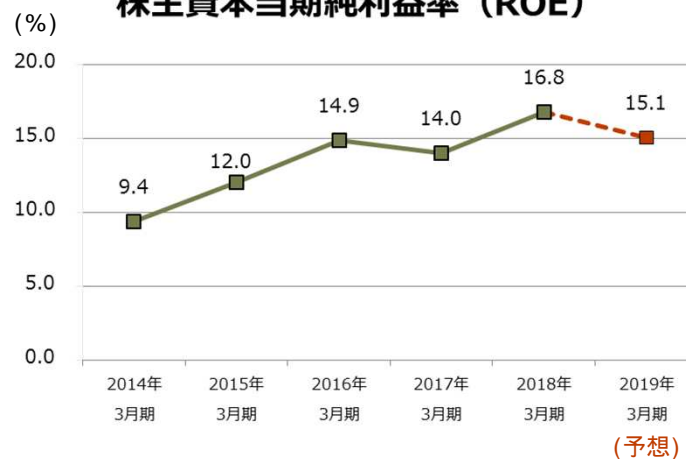
2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています
2017年3月期の従業員数の増加は、非連結子会社の連結子会社への統合の影響

投資指標

売上高経常利益率



株主資本当期純利益率 (ROE)



1株当たり当期純利益 (EPS)



株価収益率 (PER)



株価純資産倍率 (PBR)

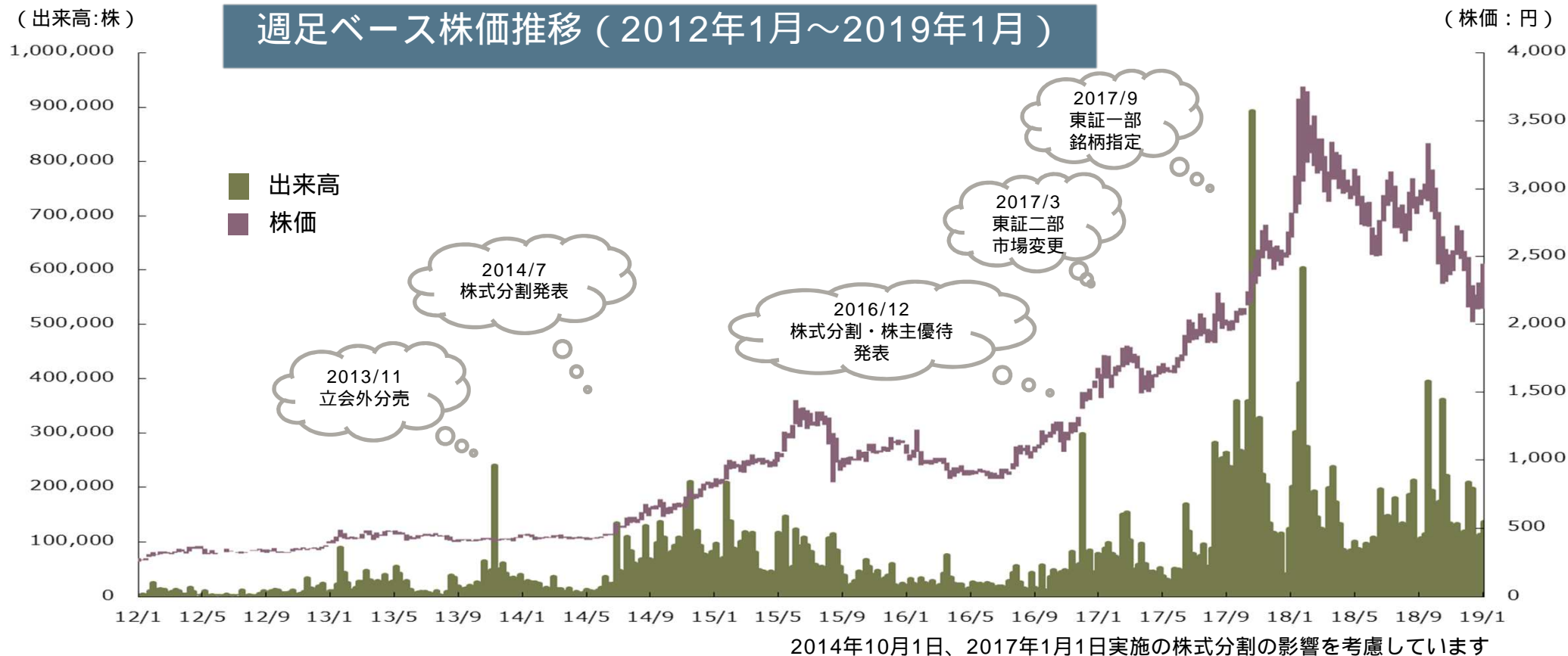


時価総額 (3月末時点)



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション



バリュエーション (2019年1月25日現在)

売買単位：100株

単元株価格：25万円

時価総額：312億円

P E R (19/3期予想)：16.37倍

R O E (18/3期実績)：16.8%

P B R (18/3期実績)：2.60倍

IR情報サイトのご案内

NS TOOL

お知らせ お問い合わせ サイトマップ English

製品情報 事例・技術情報 会社情報 採用情報 **IR情報**

TOP > IR情報

Investor Relations

IR情報

東証一部コード: 6157

IRトピックス

2018.12.04
2019年3月期 第2四半期決算説明会[PDF](1,311KB)

2018.12.03
2019年3月期 中間報告書[PDF](274KB)

2018.11.20
ベル企業レポート(2019年3月期第2四半期)[PDF](1,016KB)

IRニュース

2018.12.17
社外取締役辞任に関するお知らせ[PDF](33KB)

2018.11.19

IR情報

IR情報トップ

トップメッセージ

個人投資家の皆様へ

IRトピックス・IRニュース

IRカレンダー

+ 経営方針・体制

+ 事業戦略

+ 業績・財務情報

+ IRライブラリー

+ IRイベント

+ 株式情報

IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます
現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員経営企画室長	田島 寛
管理部経理課課長	今関 弘毅
管理部 I R 担当	松尾 友紀子

TEL : 03-6423-1135
FAX : 03-6423-1186
E-mail : ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。